

平成30年度 学校評価報告書 横浜市立東俣野小学校

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	<p>①本時の学習の流れを掲示することによって、子ども自身が見通しをもって計画的に学習できるようにする。</p> <p>②安心感をもって学習に取り組むことができるよう、話し合いの視点を明確にした学び合いの場の設定をしていく。</p>	<p>①掲示をすることによって、学習の流れを意識して見通しをもつことができるようになった。学校全体では、日常化できていない場面も見られたので、引き続き実行していくようお互いに声を掛け合う。</p> <p>②話し合いの視点を明確にして場を設定したことで、子どもたちが安心して学習に取り組めた。課題としては、話し合いの場は設定しているが、学び合いにまで高まっていない。教師の問い返し等を工夫していくことで、学び合いを深める。</p>	B
豊かな心	<p>①学年間で道徳の授業を見合い、授業の展開方法や評価の視点などを学びあう機会を設けることを継続して行っていく。</p> <p>②たてわり活動の時間だけでなく、日頃の学習の中で異学年とかかわるような場を設けていく。</p>	<p>①教材研究、授業の方法は学年間で足なみを揃えて、共通理解ができた。しかし、お互いの授業を見合うことが難しい部分もあったので、期日を決めて学び合う機会を確保していきたい。</p> <p>②たてわり活動以外にも国語や生活科、総合などの教科や、行事を通して異学年と関わる活動が増えた。しかし、その年によって関わり方が、違う場合もあるので、ある程度年度の初めに見通しがもてるとよい。</p>	B
健やかな体	<p>①体力づくりや委員会活動を活用して、多様な運動遊びを提案し、運動の日常化を図る。</p> <p>②生活リズムチェックカードでの実態調査を継続し、家庭と協力し基本的な生活習慣を確立させていく。</p>	<p>①1.2年生の多様な動きをつくる運動遊びの内容・方法をブロックでよく考えて実践できた。運動委員会提案の休み時間を活用しての運動遊びも工夫され、日常化が少しずつ図られた。どのような活動を行ったかを学年ノート等で記録に残していけるとよい。</p> <p>②協力的な家庭が増え、生活リズムチェックカードの回収率もあがってきた。生活習慣の意識は定着できていない児童もいるので、懇談会や保健だよりなどを使って「保護者へ呼びかけをしていく」</p>	B
児童指導	<p>①懇談会やお便り、スタンダードの内容を伝えていく。</p> <p>②身支度をしっかりとって給食当番を行えるように学級指導をする。</p>	<p>①職員会議でのスタンダードの共通理解は図れている。保護者へも懇談会・お便り等で伝えることができた。児童へも職員間で足並みを揃えて指導していく必要がある。</p> <p>②身支度の意識を高められるように指導してきたが、今年度から給食の帽子が個人持ちになったこともあり、マスク忘れとともに帽子忘れも多かったため、忘れ物が減るように声かけをしていく。</p>	B
特別支援教育	<p>担任、児童支援専任、級外職員、管理職が連携して、その場に応じたできる限りの指導・支援をしていく。</p>	<p>担任、児童支援専任、SC、SSW等と連携が取れ、配慮が必要な児童がいた場合、素早い対応で、指導や支援をすることができた。</p>	A
保護者・地域連携	<p>①総合的な学習の時間全体計画と学年内容を実践をもとに作成する。</p> <p>②学校や各学年の行事の様子などを学校ホームページに毎月更新して知らせ、機会あるごとに閲覧を呼びかける。</p>	<p>①低学年は地域の方々と連携することができた。学年ごとの単元構想を基に実現できていた学年もあったが、試行錯誤の学年もあった。また学習の足跡を残すことができていないので、各学年で足跡をまとめ、また総合部が中心となり、各学年の単元構想図を取りまとめている。</p> <p>②担当の先生を中心に定期的に更新を行い、QRコードを学校だよりに掲載することで、積極的に閲覧を呼びかけることができた。</p>	B
いじめへの対応	<p>①今後も継続して職員会議の中で、児童理解を行っていく</p> <p>②共通理解の上で、支援体制の連携を密にとりながら取り組んでいく。</p>	<p>①職員会議の他にも、学年研・ブロック研、主幹会議などの会議の時間を活用して様々な場で情報共有・児童理解を図っていくことができた。</p> <p>②担任以外にも、学年、級外を問わず多くの教員、SCやSSWと連携を密に取りな</p>	A
人材育成・組織運営	<p>①研修の年間計画を立て、時期や状況に応じた研修を計画的に実施し、精選する。</p> <p>②日常の児童の様子を共有する時間を多くもてるようにする。</p>	<p>①研修を精選し、短期間で集中して行うことができた。また、メンター研は外部講師から学ぶなど、工夫した取り組みが見られた。</p>	A
ブロック内相互評価後の気付き	<p>大正中学校ブロックでは、教室環境・英語学習・児童の様子・教職員の働き方(業務軽減)などについて話し合われた。本校のよい点として、学習の流れが各教室で分かるようになってきていること、特別教室の椅子や体育館に非常時に備えたヘルメットが設置されていること、児童の荷物が整理しやすいよう個人のファイル立てなどを活用していることがあがった。また働き方改革につながる取組として、行事の写真販売を業者に委託し、保護者が学校に来校しなくても家庭で写真を選べるようにしたことや学校便りにQRコードを付けてホームページを活用しながら学校の様子を知らせるようになったことなども評価いただいた。</p> <p>英語学習では、小中で系統的に学習できるよう連携していく必要があることを改めて確認できた。児童の様子では、学校生活にふさわしい服装や髪形について家庭への理解を深めていく必要があることが話題になった。</p>		
学校関係者評価	<p>ここ数年の児童生活アンケート結果の推移を見ると、年々学校が落ち着いてきたことが確かなことだと分かる。「人の話を最後まで聞くことができる」子の割合が高くなっていることもいい傾向である。小学校で育てているものが中学校でも生きてきている。保護者も多忙になっているが、基本的な生活習慣・しつけ、子ども同士のトラブルの解決等まで学校に任せてしまうケースはないか。学校への過度な要求は地域でも一緒になって考えていきたい。</p>		

学校経営中期取組目標振り返り	<p>児童自己評価で、授業が楽しい・分かるといった割合が高くなったのは嬉しいことである。ていねいな教材準備や、ペア学習・グループ学習などの学び合いの設定に意識できた結果だと考える。友だちや先生とのかわり、規範意識という点でも、全体的には、素直で優しく落ち着いた雰囲気になっている。図書、クラブ等のボランティアの方々、敬友会、安全サポートの会、風の会といった方々をはじめ、保護者・地域の学習協力者とのかわりに加え、今年度は卒業生との交流の機会も増やすことができた。また、今年度は、教職員の働き方改革に向けて、家庭訪問を地域訪問や個人面談に変える、プール清掃を業者委託にする、行事の写真販売をネット販売にするなどの新たな試みをするとともに、2020年度からの新指導要領実施に向けて、保護者の思いと教職員の思い・願いをベースにして新たな学校教育目標を教職員全体でつくりあげることができた。</p>
----------------	---